



門司港の心臓を動かす。
当事者たちが集う、
門司港栄町銀天街の新しい景色。

寺町の贈る言葉

「歴史あるまち」に「未来を描いている」島田さん。伝統を守るだけでなく、新しい人と文化をつなぐ「接着剤」のような存在。栄町銀天街の変化が始まっている理由は、島田さんたち熱いみなさんの一歩から！

島田一輝さん
門司港栄町商店街振興組合 理事

門司港で生まれ育ち、大手飲料メーカーで16年ほど働かせていただいた後、故郷に戻ってきてまず感じたこと。それは「この街のポテンシャルは、まだまだこんなもんじゃない」という、根拠のない、でも強い確信でした。私が店を構える栄町銀天街は、門司港の暮らしの真ん中にあります。地元の中学生たちが「銀天街のために何かしたい」と語る姿を見たとき、私は決めました。この場所を、もう一度、誰もがワクワクする「街のリビング」に再生しよう。

その時、理事長や副理事長をはじめ、世代を超えた仲間たちが一つになっ

て動いてくれました。

もちろん、新しいことを始めれば戸惑いの声が上がることもあります。でも、私はそれさえも「街が変化しようとしている熱」だと捉えています。大切なのは、批判を恐れることではなく、いかに同じ志を持つ「当事者」を増やせるか。それが私のま

ちづくりのすべてです。

今の栄町銀天街を歩いてみてく

ださい。北九州市立大学の学生たちが汗を流すハロウィンがあり、地元の

経営者たちが店先で笑い合う夜市があり、門司の有志で始めた「門司の芋」での焼酎造りも形になりつつあります。かつては静かだった通りに、今、多様な人々の出会いと刺激が交差しています。

「商店街は、ただ物を
買うだけの場所じゃない」



門司港栄町銀天街
@mojiko_sakaemachigintengai



新しいコミュニティが生まれ、誰かが新しい一歩を踏み出す場所。そんな熱い鼓動が、今の門司港には流れていません。ガイドブックには載っていない、私たちの「本気の遊び場」をぜひ体感しに来てください。